

## キヤノンマシナリー (コード 6344 大証 2部)

業績推移(連結) (06.12は9カ月変則決算。予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		当期利益		一株当利益	一株当配当	配当性向
		伸び率		伸び率		伸び率			
06.1~9月	17,211	+54.8	2,300	+175.8	1,080	-14.2	138.6	-	-
07.1~9月	15,963	-7.3	1,913	-16.8	1,127	+4.3	142.0	-	-
06.12	16,846	-	2,341	-	1,245	-	159.0	20.0 記	12.6
07.12(予)	24,500	-	3,080	-	1,770	-	222.8	25.0	11.2

**特色**...半導体製造における後工程設備(ダイボンダーなど)、事務機器(プリンターやコピー機など)関連製品の生産設備などFA(ファクトリー・オートメーション)装置の開発・製造・販売を手がける、キヤノングループの半導体製造装置メーカー。ダイボンダーで国内シェア首位。

### 今期の第1~3四半期は前年同期比減収・経常減益に

**セミコン堅調も減収 経常減益**...今期の第1~3四半期(07年1~9月)は、前年同期となる06年1~9月(06年3月期の第4四半期と06年12月期の9月中間期の累計値)に比べ、売上高が7.3%減、経常利益が16.8%減となったが、前回(07年6月中間決算発表時)予想(売上高155億7,000万円、経常利益15億9,500万円)を上回っており、業績は引き続き回復傾向に。事業別売上では、セミコンシステム事業が81億5,800万円(前年同期比7%減)、FAシステム事業は78億500万円(同7.5%減)となった。セミコンシステム事業については、主力商品であるダイボンダーで「ワールドワイドナンバーワン」を目指して製販一体となった活動を推進し、ダイボンダーについては計画通りに推移。また、大型設備の売上が下期に集中しているFAシステム事業では、生産革新活動によって生産性の向上、原価低減で大きな効果を上げ、当初計画を上回る業績となった。

### 07年12月期の通期は実質増収増益、5円増配へ

**実質増収増益の見通し**...今期(07年12月期)の通期は、前年同期となる06年1~12月の累計業績(売上高213億3,200万円、経常利益28億1,200万円、当期利益13億6,900万円)と比べた場合、売上高が14.8%増と前期に続いて2ケタ増収となりそう。また、経常利益は9.5%増の見込みで、経常利益(前回予想27億円)、当期純利益(同16億円)とも上方修正した。年間配当は25円を予定している。

**FAシステム事業売上が全体の半分強へ**...事業部門別の売上予想は、FAシステム事業137億円(期初予想127億円、06年1~12月比37.1%増)、セミコンシステム事業108億円(期初予想118億円、同4.8%減)で、売上構成比率ではFAシステム事業(55.9%)がセミコンシステム事業(44.1%)を大きく上回ってくる見通し。FAシステム事業のうち、事務機器関連売上予想は97億円(06年1~12月比165.8%増)に拡大し、売上構成比率は39.6%(同22.5ポイント増)に高まりそう。期ズレの影響から第1四半期に19億円にとどまった事務機器関連の受注高も、第2四半期99億1,000万円、第3四半期66億3,000万円と順調に推移している。一方、セミコンシステム事業では、ボンディング設備売上が95億8,000万円(06年1~12月比2.1%増)に拡大する見通し。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。